

令和3年度 学習分析事業 改善計画 三原市立久井小学校

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均 (全国を50とする)

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	目標値 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	結果 偏差値平均	46.9	54.2	50.8	53.1	48.1	50.6
算数	目標値 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	結果 偏差値平均	48.8	54.6	49.2	55.1	51.7	52.1
理科	目標値 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	結果 偏差値平均	/	/	45.8	53.4	49.1	49.9
全体	目標値 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	結果 偏差値平均	47.9	54.2	48.6	53.9	49.6	51

②全国学力・学習状況調査 正答率平均 (第6学年対象)

教科	国語	算数
目標値 (対県比)	/	/
結果 (対県比)	71 (107)	72 (102)

2. 調査から明らかになった課題

<p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学力差の大きい学年が3学年あった。 ●評定1(正答率20%以下)の児童が19%の学年があった。 ●国語では、以下の内容に課題があった。 話す・聞く…話の内容に合う図(17%)、話し合いの適切な資料(8%) 読む …作文のよい題名を選ぶ(29%)、説明文にふさわしい題を選ぶ(9%)、文の入る適切な場所を選ぶ(7%) 言語事項…国語辞典の使い方(54%)、敬語(13%) ●算数では、図形領域に課題がある学年が4学年あった。 (形作り19%、円と正三角形35%、直角37%、円周の差と変化2%) ●理科では、以下の内容に課題があった。 5年…1種類の電気回路を選ぶ(24%) 6年…砂や石が堆積する場所(13%)、水の流れと川の断面図(9%) 	<p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「国語」は、読むことにおいて県平均+5.4ポイントであるが、他の領域と比べると、平均正答率が低かった。誤答分析を行った結果、2四「面ファスナーが国際宇宙ステーションの中でどのように使われているかを書く」問題において、「面ファスナーのよさ」が取り上げられておらず、条件に合わせて書けていないことが原因であった。一つ前の2三の短文を書く問題においても、2四と同じように条件が2つ提示されているが、その問題においては、四角の中から言葉を取り上げるよう条件提示がされるなど、狭い範囲からの読み取りを促されており、それがヒントとなって読み取りができたものと考えられる。しかし本2四の問題においては、面ファスナーのよさが書かれている段落を自分で選び、よさを表している言葉を選ばなければならない。そこで、本校児童においては、文章全体から目的に応じて必要な情報を読み取る力が不十分なのではないかと考えられる。 ●「算数」は、図形の問題の解決方法を記述する問題において、県平均-5.7ポイントである。誤答分析を行った結果、情報過多の問題において、正しく高さを選べていないことが原因であった。またデータの活用「あてはまる」と答えた5年生と6年生の割合を答える問題において、県平均-5.9ポイントであった。誤答分析を行った結果、問われている発言を選んで答えるのではなく、提示された子どもの発言全ての問いに答えていた。 ●国語にも算数にも共通していることは、目的をもって必要な情報を的確に選ぶ力に課題があると考えられる。また、国語において、中心となる言葉の読み取りができていないことや、算数において、三角形の辺を高さとして選んでいることから、基礎基本の力を確実に定着させる必要もあると考えられる。
---	---

3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童が「自分たちで解決できた。」「みんなで新しい発見をした。」などといった実感がもてる授業に向けて授業改善を行う。 ○評定1(正答率20%以下)の児童が19%の学年においては習熟度別の学び直しの場を設定し、学力の定着を図る。 ○全学級が、課題となった学習内容の補充学習を行い、学力の定着を図る。 ○情報過多の問題に慣れる。 	<p>①思考力・判断力・表現力が問われている問題が含まれている単元テストを選び、全学年で購入した。 ②授業を見に行こう月間において、全クラスが授業を公開して授業研究を行い、目指す授業の共有化。 (授業モデルに提示されている項目を授業観察をする際の項目とし、目指す授業の共有化を図る。またフォームを使って授業観察をした際の気づきを入力し、全職員がすぐに結果が見れるようにする。) ③管理職による授業観察の実施。 ④NRTの誤答分析による実態把握と改善計画の立案。 ⑤ドリルタイムにおける学び直しの実施による基礎基本の力の定着。 (1学期は前学年の学習内容、2学期以降は、当該学年の学習内容を行う。)(年度当初はミライシードの活用のみを考えていたが、児童に学力がきちんと定着しているかどうかの見取りが難しいという声が出されたため、2学期以降は紙媒体で学び直しを行い、担任が確実に学習内容の定着を見取ることができるようにした。)そして、ミライシードはプリントが早くできた児童が取り組むことにした。 ⑥教科書の「学びを広げる」の学習を丁寧に行い、算数的なものの見方考え方を身に付けさせることで、目的をもって情報を選ぶことができる力を身に付けさせる。</p>	<p>①4月 ②6月・7月 ③週1回 ④6月 ⑤6月・7月 ⑥各単元</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Q-U2回目の学習意欲の数値(全学級で全国得点 +0.8以上) ・各学期まとめテスト(思考力・判断力・表現力を問う問題を含む)平均、全学級80%以上 各学期まとめテスト50%以下の児童数 全学級10%以下 各単元末テスト50%以下の児童数 全学級10%以下
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全学級において、互いに肯定的評価を行う場をもつ。 ○児童会を中心として、学年を越えた交流の場を計画的に設定する。 ○全学級において、子どもと定期面談を実施し、月1回の研修で実態を共有できるようにする。 	<p>①Q-Uの分析による実態把握と改善計画の立案。改善計画の共有。 ②面談の実施。 ③各学級の朝の会や学級活動における児童の肯定的評価。 ④児童会活動の充実。</p>	<p>①6月 ②6月 ③年間 ④年間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Q-U2回目の一次支援の数値の向上(全学年で1回目以上)